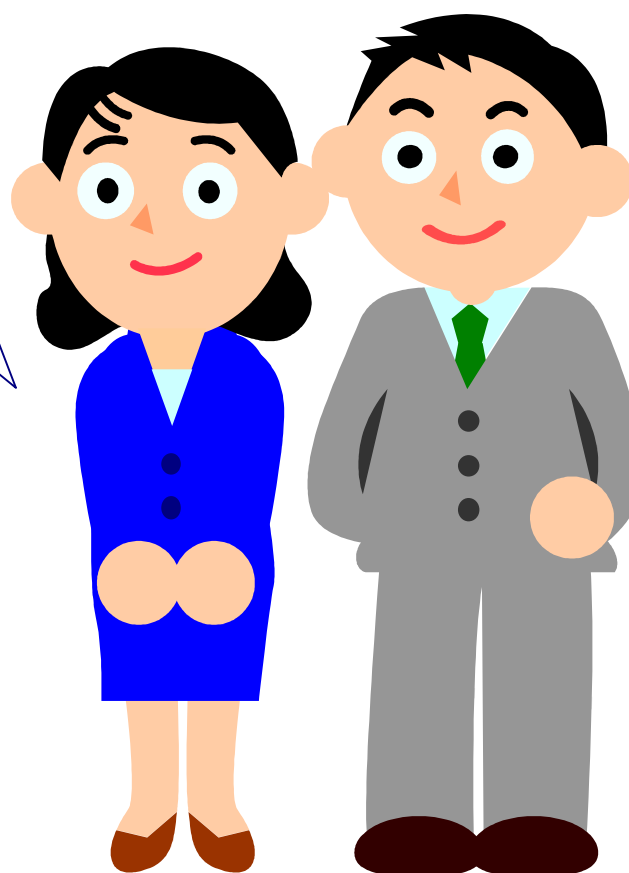


急募！

未来の京都づくり アイデア募集！

未来の京都づくりのため、今、何をすべきか？
ご意見・ご提案をお寄せください。



共に汗をかい
て取り組みま
しょう！



京 都 市

市民の皆様との「共汗」と政策の「融合」で、未来の京都づくりを進めるために...

計画策定の早い段階から皆様の御意見をお伺いします

- 世界に誇る京都のまちは、先人たちの血の滲む改革の努力の結晶です。

147万人の市民がいきいきと暮らし、まちの中に鴨川・桂川が流れ、鮎がとれる。産業界と大学との知恵が共有され、最先端の技術が生み出される。環境と文化が融合した様々な「美」が世界を魅了し続ける。こんな凄い都市は世界中どこを探しても京都しかないと言われている。

この誇るべき京都のまちは、先人たちの血の滲む改革の努力の結晶であります。

明治期への移行に伴う都市の衰退の危機を脱した、全国初の学校創設や疏水建設などの京都復興策。終戦後の財政窮乏により財政再建団体となった折も、行政整理による縮減策のみならず国際文化観光都市建設の取組など、将来の京都を展望し、市民と行政が力を合わせて難局を乗り越え、新たな飛躍につなげてきました。

- 京都は今、大きな岐路に立たされています。

京都は今、過去に経験した危機に勝るとも劣らない大きな岐路に立たされています。人口減少社会の到来や予想を超えて進む地球温暖化など、京都の未来づくりに向けて解決すべき課題は山積。他方で、国、地方ともに巨額の負債を抱えています。

京都市は、これまで全国屈指の改革を断行してきました。しかし、国の三位一体改革以降、地方交付税等が大幅に削減され、財政状況は極めて深刻な事態となっています。従来の延長線上の改革にとどまらない、より抜本的な改革を市民の皆様と力を合わせて断行しなければ、3年後には財政再生団体となり、第2の夕張市になりかねません。

- 「共汗」と「融合」で新たな地域主権時代のモデルを示す。

真の改革は単なる縮小均衡を目指すものであってはなりません。

幾多の苦難を乗り越えてきた改革の遺伝子、自治の力が受け継がれている京都。危機を新たな飛躍の好機とする、まさに「ピンチはチャンス」であります。

私は、「未来の京都 まちづくりマニフェスト」で目標とともに、それを実現するための二つの手法を提示しました。

一つは、市民の皆様との「共汗」です。

マニフェストでお約束した124項目の施策のほとんどが市役所だけでは実現不可能です。市民の皆様一人ひとりと、夢や誇り、責任、行動、そして成果も共有することによって「京都力」を最大限に引き出す。そのために私を先頭に全職員が一丸とな

って大粒の汗をかいていきます。

もう一つは、行政の縦割りを排した政策の「融合」です。

国と地方との関係、府と市との二重行政の排除はもとより、市の政策についても徹底して縦割りをなくし、市民の目線で融合させ、効果的で無駄のない政策に磨き上げます。

「いのち」を大切にする。「環境」への高い志を共有する。「知恵」をいかし活力を高める。「ひと」を育て、まちを元気にする。「刷新」し、市役所を変える。この5つの視点を横軸に、福祉や教育、産業、都市基盤整備等の各分野の政策を縦軸に、相互に筋を通して全てを融合する。

この縦系と横系で編まれた政策が、しっかりと未来の京都を築きます。

- 4年間の市政の羅針盤としてプランを策定します。

4年後の京都の姿を実感し、夢を共有していただき、「共汗」と「融合」で目標に向かって邁進するための羅針盤として、私の任期中の4年間での「政策の推進」と「行財政改革」の取組が一体となった「京都未来まちづくりプラン」を策定することとしました。

「京都未来まちづくりプラン」は、「いのち」、「環境」、「知恵」、「ひと」、「刷新」の5つの視点から見た「5つの京都力向上策」を示す「政策推進プラン」、「刷新」の核となる「行財政改革プラン」、この2つのプランを推進する原動力となる、あらゆる分野での「共汗」の取組を進める「市民の皆様と「共汗」で推進」、「地域主権の時代にふさわしい地方自治の確立」、将来を見据え、京都の更なる飛躍を目指す「次期基本計画の策定に向けて」の5部構成を予定しています。

- 計画策定の早い段階から皆様の御意見を頂戴し、プランに反映します。

この「骨子」は、計画策定の出来る限り早い段階から市民の皆様の積極的なご意見を頂戴し、大いに議論していくためのたたき台となるものです。

「市民の声を反映する市政」から「市民と共に汗する市政」へ。「足りない所を批判し・批判される関係」から「足しあう関係・高めあう関係」に。

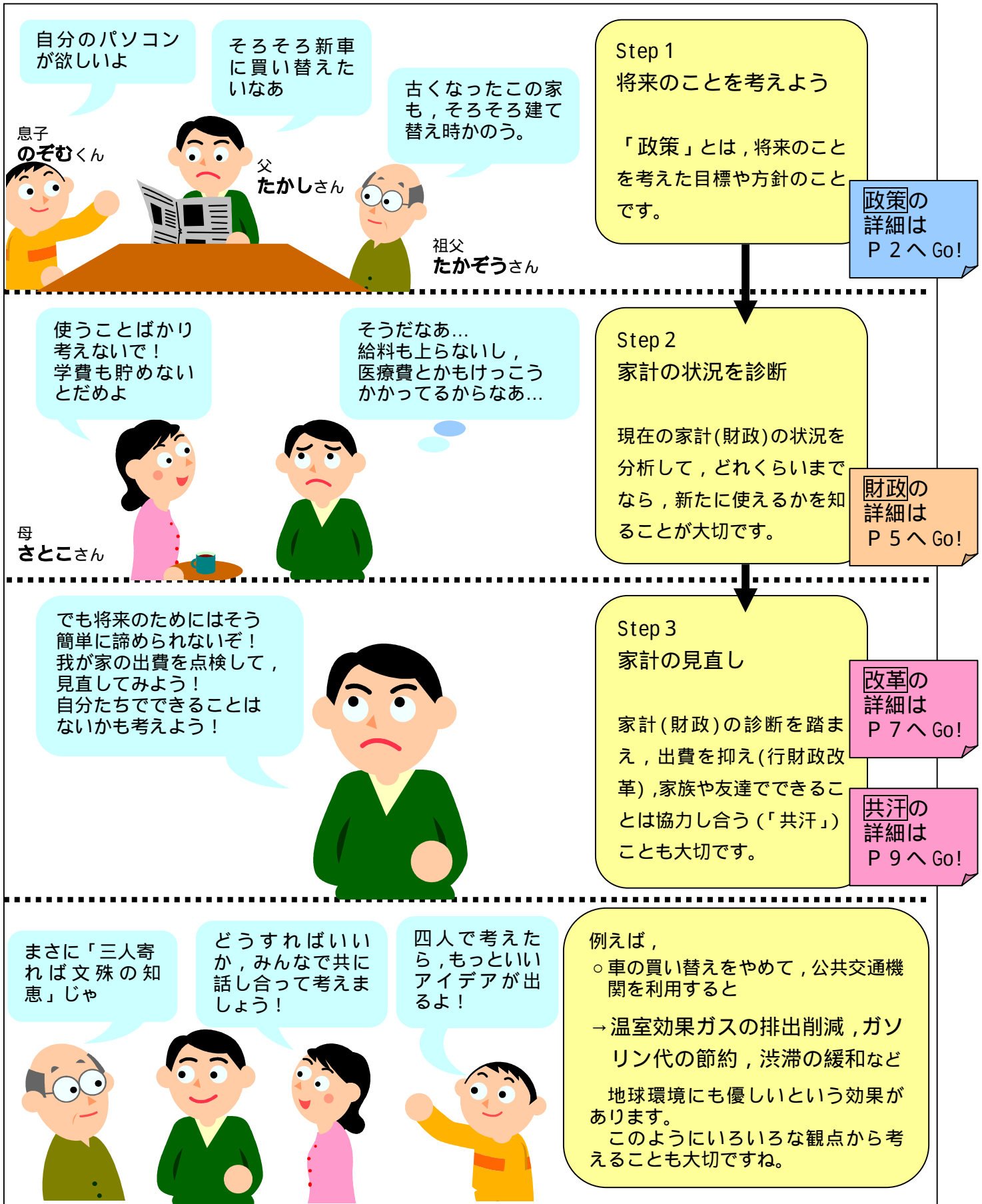
そうした、新たな地域主権時代のモデルとなる自治のかたちを構築する。そのための第一歩として、皆様の熱い思いを心からお待ちしております。



かどかわ だいさく
京都市長 門川 大作

よくわかる「京都未来まちづくりプラン」 ～未来の「政策」と「行財政改革」を一緒につくる理由とは～

「政策」、「行財政改革」…。何だか難しいことばですね。わかりやすいように、京(みやこ)さんの家庭に例えてみました。





Q．政策推進プランって，
どんな内容なの？

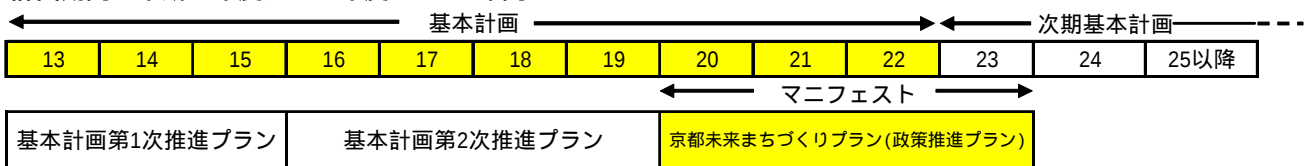


A．未来の京都のまちづくりのために，
今後4年間に取り組む必要がある
施策や事業を盛り込みます。

政策推進プランの目的

- 1 「未来の京都 まちづくりマニフェスト」の実現
「未来のまちづくりマニフェスト」に掲げられた124の施策を実現するための具体的な事業を盛り込みます。
- 2 京都市基本計画の総仕上げ
「京都市基本計画第2次推進プラン」を引き継ぎ，必要な施策・事業に継続して取り組むなど，基本計画の総仕上げを図ります。
- 3 次期基本計画への架け橋
次期の基本計画の初年度に当たる平成23年度の主な取組も推進プランに盛り込むことにより，次期基本計画の円滑な策定に繋がります。

計画期間は平成20年度から23年度までの4年間



政策推進プランの特徴

- ① 「未来の京都 まちづくりマニフェスト」項目全てを盛り込む
- ② 市民の皆様と共に汗する市政運営の推進を最重視
- ③ 政策を「融合」することにより，効果的で無駄のない政策に磨き上げ
- ④ 施策・事業ごとに，年次計画，成果指標・目標値（共汗指標）などを明示するとともに，進ちょく状況を公表
- ⑤ 策定後も，社会経済情勢の変化などを踏まえ，市民の皆様にとって最もよい結果になるよう，適宜必要な見直しを行う「進化する計画」



政策推進プランの方向性などについて，ご意見をお寄せください。

例えば… 「政策推進プランにはこんな視点も必要では？」

などなど



ご意見・ご提案の提出
方法は，12ページを
ご覧ください。



Q. どんなことが書かれているの？

A. 「5つの京都力向上策」について、
書かれています。



5つの京都力向上策

行政の縦割りではなく、市民の皆様の目線から、政策を融合し、企画、実施及び評価するため、「いのち」、「環境」、「知恵」、「ひと」、「刷新」の5つの視点に沿って、平成23年度までの4年間に取り組む、主な施策・事業（京都力向上策）を取りまとめるとともに、「共汗指標」を設定します。

→「共汗指標」とは？

市民の皆様と行政が「未来の京都」の姿を共有し、その実現を目指す目標です。目標を達成するためには、市民の皆様と共に汗することが不可欠なため、「共汗指標」としています。

いのち

子育てや福祉、保健、防災、生活安全など、あらゆる「いのち」を徹底的に大切にします。

<基本方向>

人権尊重のまちづくり

誰もが安心して健やかに暮らす

子どものいのちを守り育む

笑顔・健康都市の実現

災害からいのちを守る

市民の暮らしを支える都市基盤の整備

<共汗指標の例> 障害のある人が生きがいを持って働ける場 10箇所増設



子育て支援活動いきいきセンター
(つどいの広場)

環境

まち美化や環境共生、景観や自然の保全、創生など、「環境」への高い志を共有します。



ボランティアによるまちの美化活動

<基本方向>

地球にやさしい環境共生のまちづくり

公共交通優先の「歩いて楽しいまち」

の実現

「世界で最も美しい都市・京都」の推進
京都創生を推進し、都市の魅力を向上
豊かな自然と緑を守り育てる

<共汗指標の例> 公共交通利用比率 鉄道16%→20%、バス6%→10%

知 恵

京都ならではの産業の振興，生涯学習など，「知恵」をいかし，活力を高めます。

<基本方向>

産学公の連携で知恵産業を創出

京都ならではの産業の振興

21世紀の活力を担う南部地域の魅力あるまちづくり

お年寄りをはじめ市民の知恵と経験で京都づくり

「和の文化」を深め，世界に発信

「大学のまち・京都」の魅力を更に向上

<共汗指標の例> 知恵シルバーセンター登録者数 0人→3万人



京都の伝統産業の活性化支援

ひ と

教育や学生支援，市民協働など，「ひと」を育て，まちを元気にします。



住民等によるまちづくり検討会

<基本方向>

次代を担う子どもたちをしっかりと育成

幅広い市民の英知の結集で未来の京都づくり

自治・自立・協働のまちづくり

若者が夢と希望を持って挑戦できるまちづくり

学生や留学生の活躍で京都がはつらつと

誰もが，いつでもどこでもスポーツに親しめるまちづくり

<共汗指標の例> 1年で100冊以上の本を読む子どもの数 1万人→2万人

刷 新

不祥事根絶や市民サービスの向上，行財政改革など，行財政運営を「刷新」し，「市民の皆様から見て日本一の市役所」に変えていきます。

<基本方向>

不祥事を根絶し，市民に信頼される市役所づくり

「同和行政終結後の行政の在り方総点検委員会」設置

市民参加と現地現場主義で市役所を抜本改革

「笑顔・親切・ていねい・テキパキ」な窓口サービス

市民感覚を徹底し，活気あふれる市役所づくり

未来の京都をつくる徹底した行財政改革

<共汗指標の例> おむすびミーティング 0回→50回



区役所等での窓口サービスの向上

京都の未来に必要な取組について，ご意見をお寄せください！

例えば… 「こんな施策も考えるべきでは？」

「こんな指標も設けるべきでは？」 などなど



ご意見・ご提案の提出方法は，12ページをご覧ください。

Q . 政策推進プランには , たくさんの施策が書かれているけど , それだけのことをするお金の余裕はあるの ?



A . 市民と行政が一体となって , 大胆な行財政改革の取組を行わなければ , 平成 23 年度には「財政再生団体」に転落しかねないほどの危機的な財政状況です。

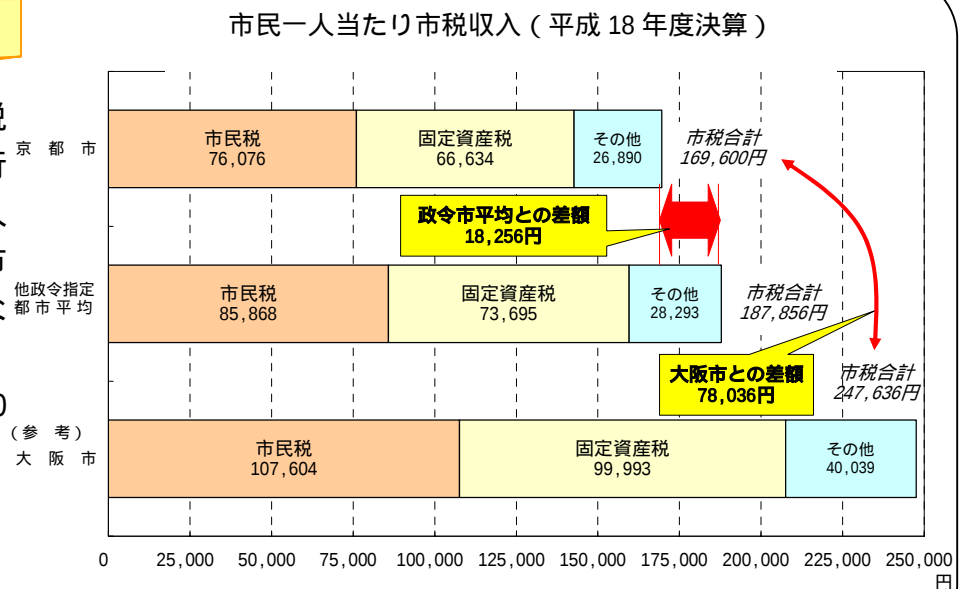
「政策推進プラン」に掲げる施策を実現するためには , これまで以上に強力に行財政改革を断行していく必要があります。



少ない市税収入

京都市は , 神社仏閣など非課税の土地が多いことや長寿化が進行していることなどから , 市民一人当たり市税収入は , 他の指定都市に比べて約 18,000 円も少なくなっています。

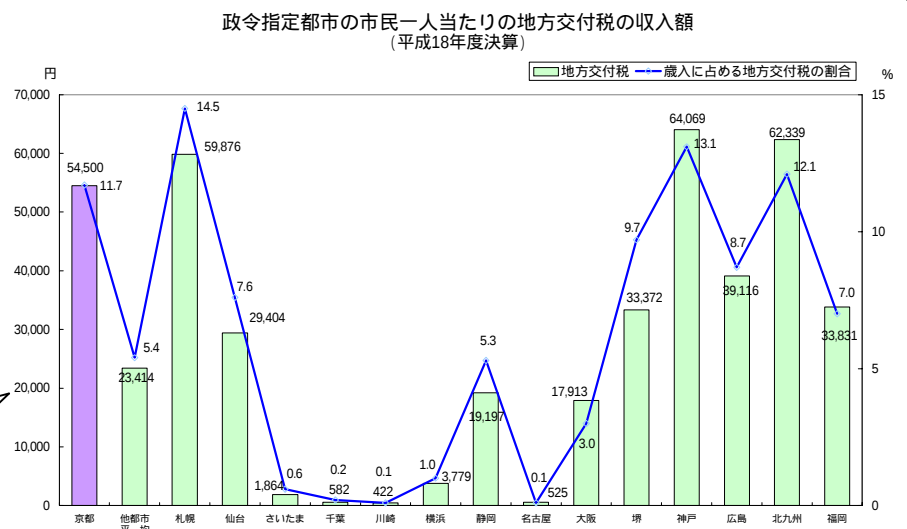
大阪市と比較すると , 約 78,000 円も少なくなっています。



地方交付税に多くを頼る財政状況

京都市は , 市税収入が少ない分 , 地方交付税に多くを依存しており , 市民一人当たりの地方交付税収入は , 他の指定都市平均の 2 倍以上となっています。

地方交付税への依存度は指定都市の中で 4 番目に高くなっています。

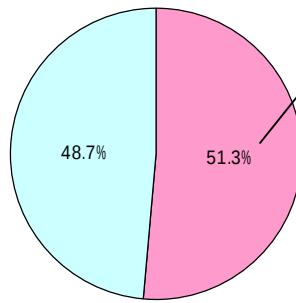


硬直的な京都市財政

扶助費、人件費、公債費は、支出が義務付けられていて任意に削減できないため、「義務的経費」と言います。

京都市は、この義務的経費の支出全体に占める割合が指定都市平均（49.2%）を上回っており、新しい仕事に着手する余裕がありません。

歳出に占める義務的経費の割合（平成 18 年度決算）



【義務的経費】

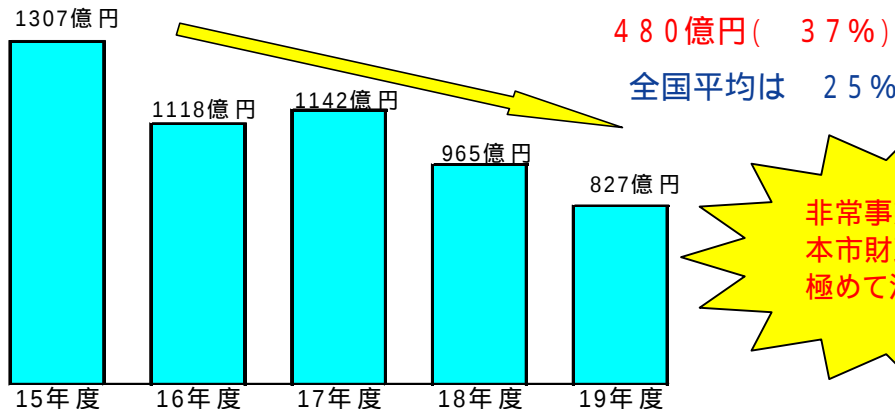
- ・扶助費（福祉・医療などに使うお金）
19.9%（政令市平均 17.7%）
- ・人件費（職員の給料など）
19.7%（政令市平均 16.9%）
- ・公債費（市債（借金）の返済）
11.7%（政令市平均 14.6%）

国による地方交付税削減

地方交付税は、国の三位一体改革以降、算定方法の見直しが大都市にとって極めて厳しいものとなっていることも重なり、大きく削減されています。

地方交付税に多くを依存する京都市の財政は深刻な事態となっています。

地方交付税及び臨時財政対策債の推移（決算額）



非常事態が続く
本市財政にとって
極めて深刻な事態

地方交付税の代替として発行する市債。返済に当たっては全額地方交付税が措置される。

今後の財政収支見通し

平成 21 年度から 23 年度までの 3 年間の財源不足累計は約 1,000 億円もの多額に上る見込みです。

これは、従前の取組の延長線上ではなく、市民と行政が一体となって、大胆な行財政改革の取組を行わなければ、「財政健全化法」に基づく「財政再生団体」に転落しかねない水準の財源不足であり、まさに危機的な状況と言えます。

今後の財政収支見通し（一般財源ベース）

（単位：億円）

	21年度	22年度	23年度
収入見込	3,861	3,835	3,821
支出見込	4,139	4,155	4,187
差引（財源不足）	278	320	366
財源不足累計（実質赤字）	278	598	964
実質赤字比率	7.79%	16.75%	27.00%

早期健全化基準
(11.25%)を超過

財政再生基準
(20%)を超過

財政運営について、ご意見をお寄せください！

例えば… 「収入を増やすためにこんな取組をしては？」

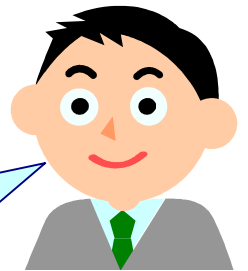
「私たち市民もこんなことで協力できるのでは？」 などなど



ご意見・ご提案の提出
方法は、12ページを
ご覧ください。

Q．京都市はこれまでどんな行財政改革の取組をしているの？

A．京都市のすべての仕事を毎年きちんと点検し，民間と力を合わせるなど，もっと効果的で効率よい手法に改められないか常に見直しをしています。



まずは業務をしっかりと点検する

京都市で行っている約1,300の業務を，必要性や効果などの様々な視点で点検し，今後その業務をより充実させていくのか，出費を抑えてその分の予算を他の業務に充てるのか，方向性を検討しています。

< 見直した業務の例 >

- ・西部クリーンセンターの廃止
 - ・公設小売市場の民営化 など
- 毎年300件ほどの業務を見直しています。

民間と力を合わせる

京都市の業務の中には，市の職員よりも民間企業やNPO，地元の方々などの方が得意とする分野もあります。民間と力を合わせた方がより効果的でより安く実施できることは，積極的に力を合わせていきます。

< 民間と力を合わせている例 >

- ・市バスの半数について民間バス会社に運営を委託
- ・公の施設の管理だけでなく運営も，民間企業やNPOなども含む市の外部の団体に委託 など

収入を増やす

市税の徴収を強化したり，使っていない市有地を売却するなど，自力で調達できる収入を増やし，国に多くを頼らずに済むよう，体質改善を図っています。

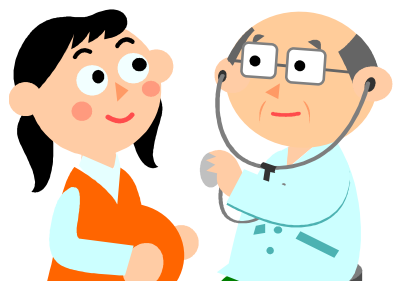
外郭団体の財政にも気を配る

京都市の財政だけでなく，市が出資している法人「外郭団体」の財政状況にも注意を払い，自立できるようバックアップしています。



改革の成果は，財源不足の縮減に役立てるだけでなく，市民サービスの向上に集中投資

- ・全国初の「京都方式」による障害者自立支援法に係る利用者負担の軽減
- ・京都市政情報総合案内コールセンター「京都いつでもコール」の開設
- ・妊婦健康診査の拡充 など



ご意見・ご提案の提出方法は，12ページをご覧ください。

行財政改革について，ご意見をお寄せください。

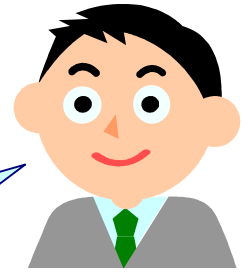


例えば…「こんなムダはなくすべきでは？」

「新たにこんな改革も試しては？」 などなど



Q．これからは，どんなふうに改革を進めていくの？



A．7つの視点で取り組み，「地域主権時代をリードする市役所」を目指します。

（目指すべき市役所のかたち）

地域主権時代をリードする市役所

（目標）

市民感覚・民間経営感覚による
行政運営の確立

未来に責任の持てる，
身の丈に合った財政運営の確立

7つの検討の視点

行政運営手法の改革

- ・ 市民や NPO との共汗（きょうかん）を基本とした業務展開
- ・ 民間活力の積極的な導入によるサービス向上，経費節減
など

歳出構造の見直し

- ・ 国の基準を超えて，市独自に実施している事業の見直し
- ・ 職員数削減をはじめとする総人件費の削減
など

歳入の確保

- ・ 市税等徴収率の向上や課税自主権の活用
- ・ 未利用地の売却など保有資産の有効活用
など

市民サービスの改革

- ・ 行政サービスについて，必要性・効果の点検，見直し
- ・ 「笑顔・親切・ていねい。テキパキ！」の民間並みの窓口サービスの提供

庁内の改革

- ・ 市民から信頼される市役所づくり
- ・ 職員の意欲の高揚，改革に取り組む職員の育成
など

公営企業・特別会計の経営改革

- ・ 経営健全化の取組
- ・ 一般会計からの繰入金の見直し
など

外郭団体の改革

- ・ 外郭団体の在り方の見直し
- ・ 本市から外郭団体への補助金，派遣職員等
の見直し
など



Q.「共汗」ってどんなことをするの？



A. 企画，実施，運営，そして評価に至る市政活動のあらゆる段階で市民の皆様と行政が知恵と力をあわせ，共に汗をかくて，未来の京都を創っていく取組を推進します。

市民の皆様と「共汗」で推進

「未来まちづくり100人委員会」の設置や「市民共汗サポーター」制度の創設など，市政のあらゆる分野で「共汗」の取組を進め，政策推進プランに掲げた施策・事業を着実に推進します。

これまででは...

市民の皆様が意見や要望を表明する仕組みは定着してきたものの，市民の皆様と行政が力を合わせて取り組む機会が十分ではないという面がありました。

これからは...

市民の皆様が参加する機会を行政が用意するだけでなく，市民の皆様と行政が自治の意識と責任を共有する中で，知恵と力を合わせて，共に汗をかくて，未来の京都を創っていくことが重要です。

こんな取組を進めていきます

「未来まちづくり100人委員会」の設置，運営

未来のまちづくりについて，市民の皆様が主体的に議論，運営，提言，そして，行動していただく「市民組織」です。



「市民共汗サポーター」制度の創設に向けた調査，制度設計

市政の様々な活動に自主的かつ積極的に参加し，行動していただける市民の皆様を「市民共汗サポーター」として位置付け，市政の一翼を担っていただくことで，市民と行政の共汗による新しい市政運営のスタイルを構築していきます。

ご意見・ご提案の提出方法は，12ページをご覧ください。

「共汗」の取組について，ご意見をお寄せください！



例えば・・・ 「共汗」できるこんな事業を実施しては？」
などなど



Q.今の「国のかたち」のどんなところがよくないの？どうやって変えていくの？



A.国から地方への関与が強いため、地方の自主性を十分に発揮することができません。

地域主権を実現するために、より一層、市民の皆様と共汗によるまちづくりを進めるとともに、地方への権限・財源の移譲を国に対して強く訴えていく必要があります。

積極的な行財政改革にもかかわらず・・・

京都市では、これまでから、市民の皆様が満足度の高い生活を送ることのできるまちづくりを目指して、市民の皆様の理解と協力を得て、他の地方自治体以上に積極的に行財政改革を進めてきたにもかかわらず、財政非常事態に陥っています。

どうしてこうなったの？

現在の税財政制度が大都市の行財政需要に見合っていないからです。また、道府県と指定都市の役割が不明確であるため、府と市の間で二重行政が発生している等の問題もあります。これらの問題の原因は、国から地方への関与度が強いため地方の自由度が低く、社会・経済活動が東京一極集中化しているという現在の国の仕組みにあります。

どうしたらよいの？

より一層、市民の皆様と共汗によるまちづくりを進めるとともに、国と地方の役割分担や税源配分を改め、国から地方へと権限と財源を大胆に移譲するなど、「国のかたち」を抜本的に変えていく必要があります。

地域主権の時代にふさわしい「国のかたち」の実現に向け、国から地方への大幅な権限及び財源の移譲や、大都市税源の拡充強化、大都市特例税制の確立等をこれまで以上に強く訴えていきます。



「地域主権」の確立に向け、皆様の声をお寄せください。
共に機運を高めましょう！



ご意見・ご提案の提出方法は、12ページをご覧ください。

Q．平成23年度以降はどうするの？

A．京都未来まちづくりプランの実現と併行して、次期基本計画の策定に取り組みます。

平成22年までの現行の基本計画は、平成20年度までに実施する具体的な施策・事業171項目を掲げた「京都市基本計画第2次推進プラン」の全項目に着手するなど、着実に推進してきました。

昨年12月に基本計画点検委員会（学識経験者等で構成）から提出された「京都市基本計画点検結果報告書」でも、現行の基本計画は「全体として相当達成されたと高く評価」されています。

しかしながら、地球温暖化対策、人口減少社会への対応など、京都の未来づくりに向けて解決すべき課題は山積しています。また、その対応に不可欠な本市の財政状況は極めて深刻で、巨額の負債を抱えている国からも多くの支援を望めない状況です。今後は、借金を重ねて次の世代に負担を回すことなく、市民の皆様と行政がともに知恵と工夫を凝らして、諸課題に果敢に挑戦していかなければなりません。

このため、京都未来まちづくりプランの実現と並行して、平成23年度から概ね10年間の市政運営の基本となる次期基本計画の策定に取り組み、京都の更なる飛躍を図ります。

他の取組との連携を図ります

1 「未来まちづくり100人委員会」との連携など

「未来まちづくり100人委員会」との連携をはじめ、若者のしなやかな発想やお年寄りの豊かな知恵、産学の蓄積された英知など京都の誇る「人間力」を結集し、議論を重ねることで、京都の目指すべき都市像をしっかりと共有するとともに、その実現に向けた処方箋を描き出していきます。

2 各区基本計画との連携

基本計画と相互に補完し合う関係にある各区の基本計画（各区の個性を生かした魅力あるまちづくりの新たな指針）の策定に向けた取組との連携を図ります。

今後の取組予定

平成20年度

- ・調査研究（次期基本計画の在り方の検討、研究会の設置など）
- ・市民意見聴取（市民アンケートの実施など）

平成21年度以降

- ・京都市基本計画審議会（仮称）の設置・運営、パブリック・コメントなど

ご意見・ご提案の提出方法は、12ページをご覧ください。

次期基本計画の策定について、ご意見をお寄せください！



例えば・・・「こんな方法で市民からの意見を聴いてみては？」

「京都のためにこんなことに取り組んでいる。取り組みたい。」などなど

未来の京都づくりのため ご意見をお待ちしています

京都市では、未来の京都づくりに向け、マニフェストをはじめとする政策と新たな行財政改革を進めるため、「京都未来まちづくりプラン」を策定します。市民の皆様の目線に立ったプランづくりを進めるため、市民の皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています。

「京都未来まちづくりプラン（骨子）」の冊子は、市役所案内所及び情報公開コーナーなどで配布しています。また、冊子の情報は、以下のホームページにも掲載しています。

1 ご意見の提出方法

郵送、ファックス、ホームページの御意見募集フォームのいずれかでお送りください。
（様式自由、裏面の用紙もご利用ください）

<ご意見の送付先>

郵 送 〒604 - 8571 京都市総合企画局政策推進室 意見募集担当あて
（住所の記載は不要です。）

F A X 075 - 222 - 3283

ホームページ <https://www.city.kyoto.lg.jp/somu/page/0000043906.html>

2 募集の締切り

平成20年8月31日（日）（必着）

3 ご意見の取扱い

いただいたご意見・ご提案は、今後、プランをとりまとめる際にできる限り反映するよう工夫させていただきます。

なお、お寄せいただいたご意見につきましては、個人に関する情報を除き、公開する場合があります。また、お寄せいただいたご意見に対する個別のご回答は致しませんので、ご了承ください。

今後の進め方

7月23日
・プラン(骨子)を公表

ご意見
募 集

9月
・プランの案を
公表

ご意見
募 集

11月
・プランを策定

2008年（平成20年）7月発行

発 行 京都市総合企画局政策推進室
総務局総務部行政改革課
理財局財務部主計課

編 集 未来まちづくり戦略策定プロジェクトチーム

〒604 - 8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市印刷物第203039号

電話075 - 222 - 3035
電話075 - 222 - 3050
電話075 - 222 - 3288

急募！未来の 京都づくりのアイデア



宛先 FAX 075 - 222 - 3283

担当：京都市総合企画局政策推進室，総務局総務部行政改革課，理財局財務部主計課

【ご意見の内容】（○をつけてください。） [複数可]

京都未来まちづくりプラン全体への意見 ・ 政策推進プランへの意見 ・
行財政改革プランへの意見 ・ 市民の皆様と「共汗」で推進への意見 ・
地方自治の確立への意見 ・ 次期基本計画の策定への意見

【年代】 _____ 歳代 【性別】 男・女（○をつけてください。）

【区分】 京都市在住・京都市在勤・それ以外（○をつけてください。）

ご意見を取りまとめる際の参考にしますので，差し支えなければご記入ください。

【ご意見欄】